



東村山市 今後のごみ処理施設について ～現在みなさまのご意見を伺っています～

1. 目指すべき方向性

① 社会動向等の状況に対応し、常にごみを安全かつ安定的に処理できる施設



② 循環型社会を推進し、資源の有効利用に寄与する施設



③ 周辺環境に配慮し、低炭素社会に資する施設

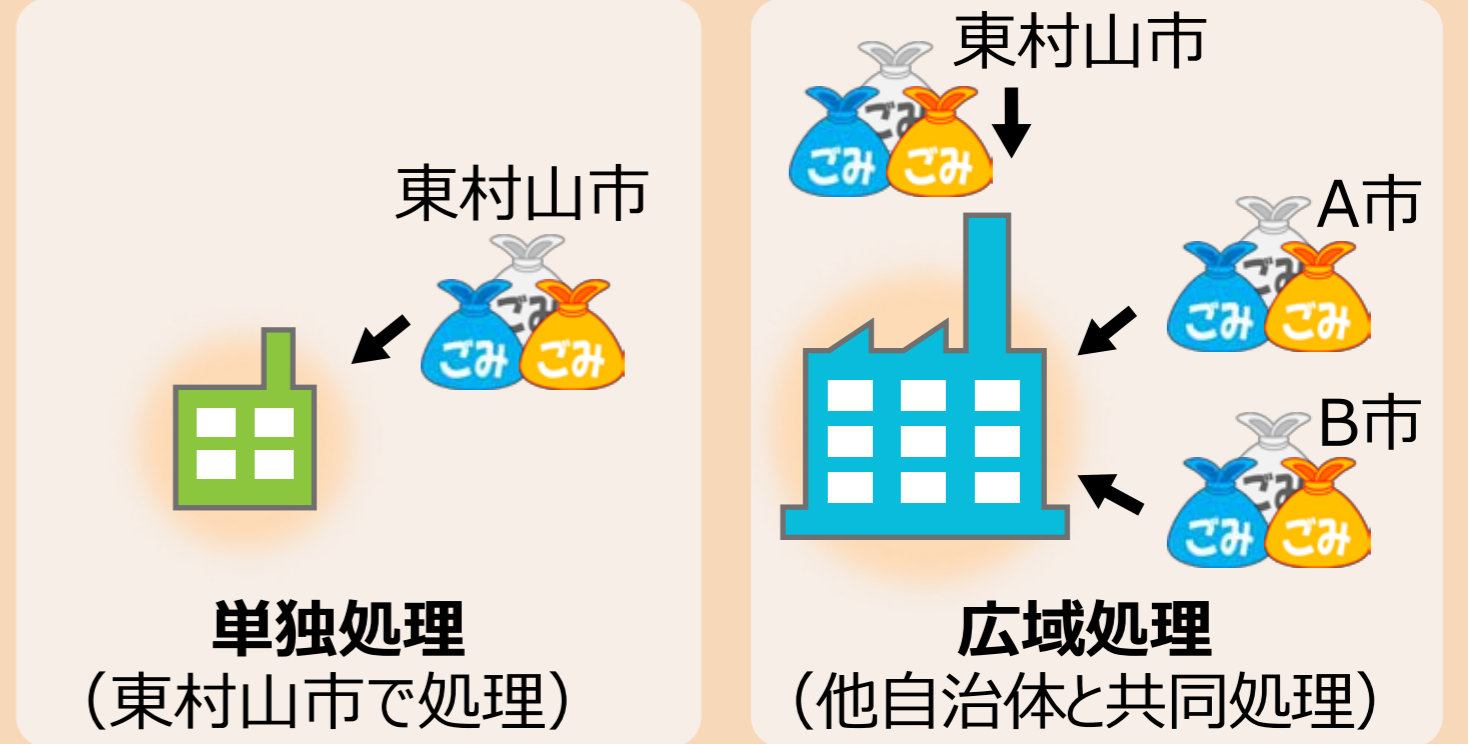


④ 施設整備及び維持管理・運営にあたり経済性に配慮した施設



2. 単独処理及び広域処理

ごみの処理の仕方には2種類あるよ



環境的側面	どちらの方式も技術上の基準を守れる	
経済的側面	-	優位性あり
社会的側面	優位性あり	-
実現可能性	実現可能性あり	実現には課題あり

実現可能性のある単独処理として整備を進めることが現実的であると考えます。

3. 施設整備用地

市内より、条件を満たす用地を計 21 カ所抽出

公有地 7カ所



久米川第13住宅跡地



東村山中央公園



狭山公園

法人所有地 1カ所

民有地 13カ所



北山公園



運動公園

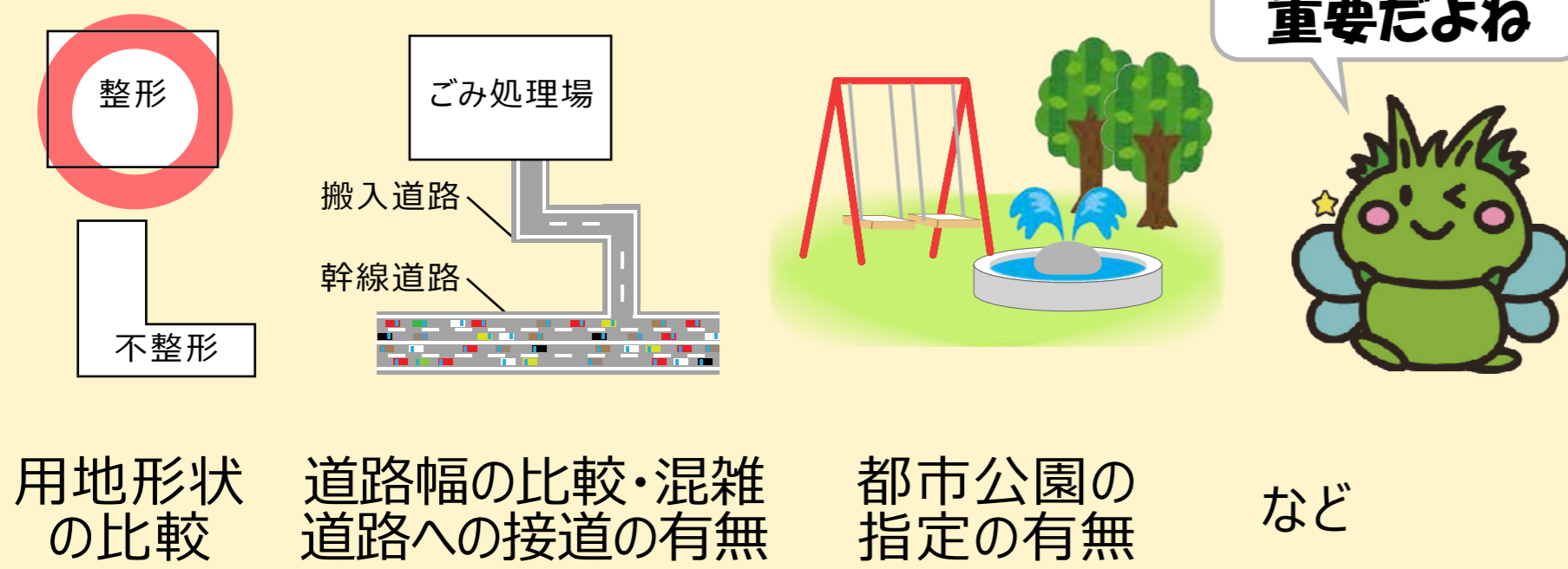


八国山緑地



秋水園

抽出された用地を比較検討

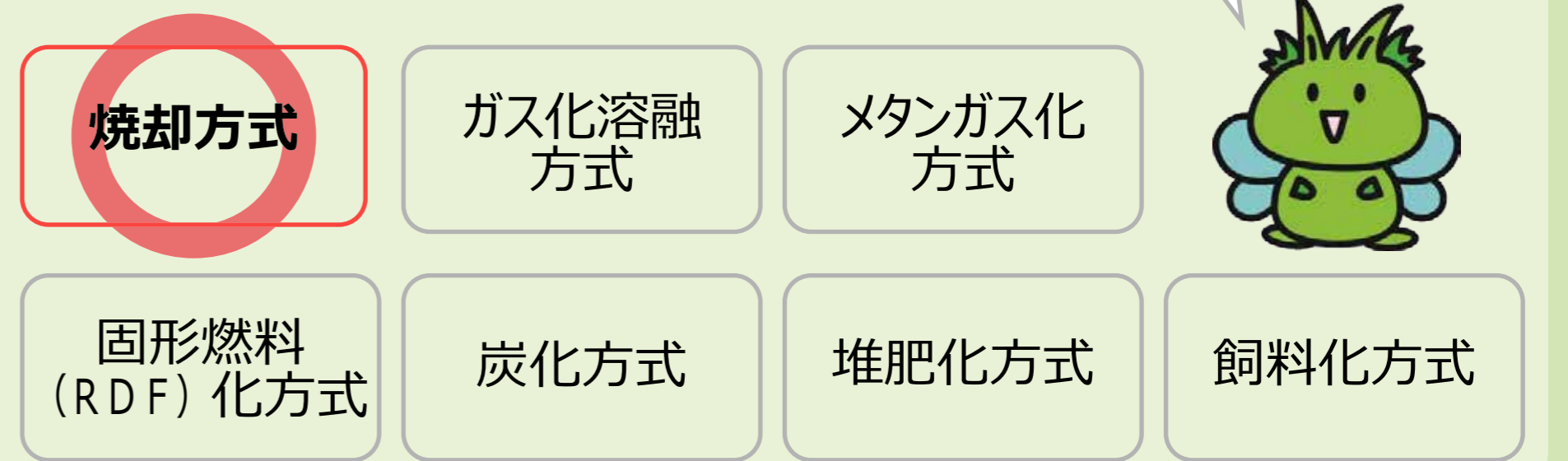


これらのすべての条件を満たす秋水園が整備用地として現実的であると考えます。

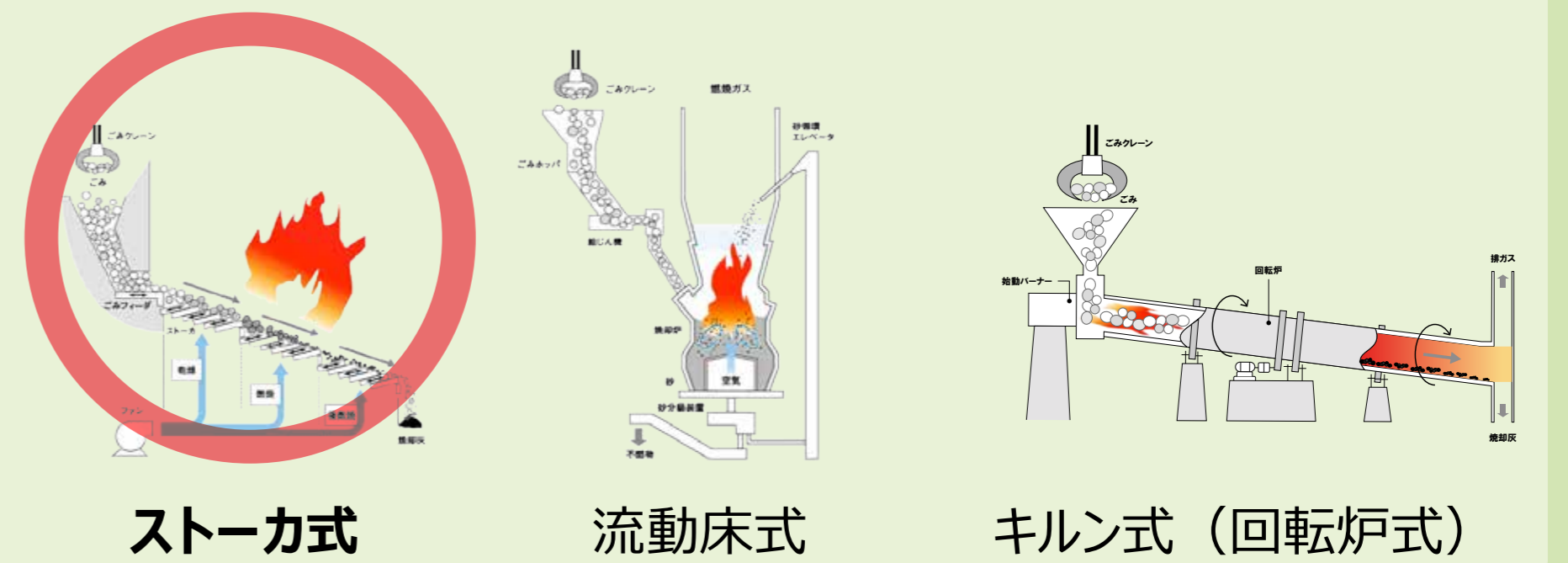
4. 処理方式

ごみ処理7方式のうち、焼却灰をエコセメント化することでリサイクルできる焼却方式を軸に検討

リサイクルは大事だよ



3つの焼却方式（ストーカ式・流動床式・キルン式）のうち、ストーカ式が建設費・維持管理費においてコストメリットがある



※図は東京二十三区清掃一部事務組合HP等を参照

処理方式は、焼却方式（ストーカ式）が現実的であると考えます。

5. 施設規模



燃やせるごみ

23,412 t/年

※現行の一般廃棄物処理基本計画にもとづく平成32年度の推計値



粗大ごみ等から出る可燃分

670 t/年



災害廃棄物

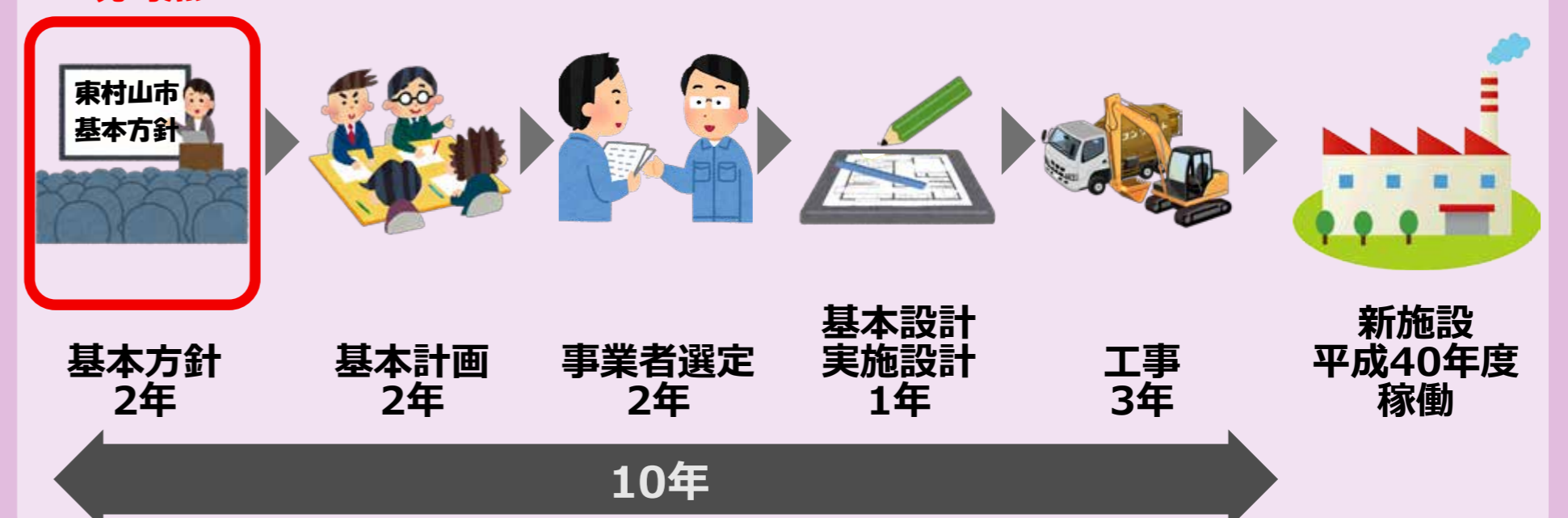
2,341 t/年

1日当たりの処理量に換算
約100 t/日

施設規模は100 t/日（暫定値）が、現時点において現実的であると考えます。

6. 施設整備スケジュール

現時点



平成40年度に稼働させることを目標に整備することが現実的であると考えます。